

国

高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

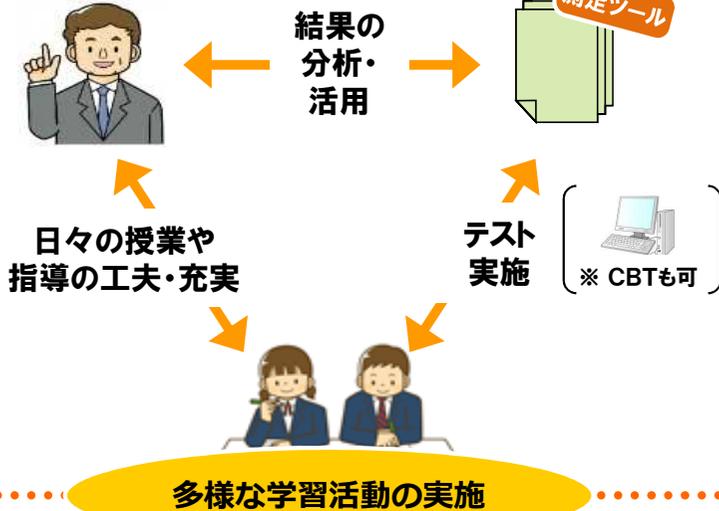
取組を促進

測定ツールの充実

高校

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実に図っていく。



高校の実態に即したものとなるように仕組みを構築

「学びの基礎診断」の仕組みの構築 (一定の要件に即して民間の試験等を認定する仕組みを創設)

基準・条件等の設定

事前・事後チェック体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、示された基準・条件等を踏まえながら、民間において高校教育の充実に資する測定ツールの開発が進むことを期待

基準・条件等の考え方(イメージ)

出題内容に係る基準・条件等

- ・ 学習指導要領との対応や出題形式等、制度の趣旨・目的に合致する出題であること。
 - ・ 受検者の学習成果や課題について確認できる結果提供であること。
- ※ 高校教育の多様性への対応と、共通性の確保のバランスに留意が必要。

実施方法に係る基準・条件等

- ・ 学校での実施や複数回受検等、学校の実情に応じて利活用できる実施方法であること。
 - ・ 学校に過度な負荷がかからず、安定的・継続的に実施できる方法であること。
- ※ 学校にとっての利便性と、実施コスト（受検料に影響）とのバランスに留意が必要。

引き続き試行調査の結果や高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見を考慮しつつ、専門的な検討を加え、平成29年度中を目途に認定基準等を策定し、平成30年度中に認定制度の運用を開始することを目指す。

各高校が、生徒の実情等を踏まえ、必要と考える測定ツールを選んで実施

設置者

○高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備

○学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組



「高校生のための学びの基礎診断」の活用方法イメージ

設置者としての取組

- 基礎学力定着に向けた「**基本方針や施策の企画・立案**」
- 教員配置や予算など「**学校支援の実施**」

「高校生のための学びの基礎診断」の基本仕様

- 学習指導要領に対応し、高校生の基礎的な学力の定着度合いを確認する出題。
- 受検者（学級、学年等）の学習成果や課題について確認できる結果提供。

高等学校での取組

- 測定ツールの活用を通じて、基礎学力の習得や学習意欲の喚起に資する「**カリキュラム・マネジメントの確立**」

学校におけるマネジメントツールとしての活用イメージ例

- ・学校の**教育目標の達成指標**として活用。
- ・一人ひとりの生徒の**つまづき箇所を分析**し、弱点克服に向けて**個別に学習指導や支援を行う**ために活用。
- ・学校の実態を基に、**加配や補習指導員を活用した少人数・習熟度別授業**を行ったり、**学校設定科目の内容を設定・改善**したりするなど教育課程編成の工夫を行うために活用。

など

- 測定ツールの活用を通じた指導の工夫により、生徒の興味・関心を引き出し、生徒自ら「**学びの質の向上**」に取り組めるようにする

生徒自身の学びの質の向上への活用イメージ例

- ・テストの結果から**自らの強みと弱みを理解**させ、**効果的に学習に取り組ませる**ために活用。
- ・**社会で自立するために必要とされる基礎学力について認識**させ、学習への動機づけを行うために活用。
- ・義務教育段階の学び直しから**学習の成果や達成感を実感**させ、**自己肯定感・自己有用感**を高めさせるために活用。

など

多様な測定ツールの中から、学校が選択

「学びの基礎診断」として認定された測定ツール群



基準や高等学校の多様なニーズに対応し、民間において創意工夫を生かした多様な測定ツールを開発・提供

個々の高等学校における「学びの基礎診断」を用いたPDCAサイクルのイメージ(一例)

【Plan】

- 学校の教育目標の一つとして、高校入試の結果や内申書等から一人ひとりの生徒の実態を把握しつつ、生徒に身につけさせたい学力の水準や把握の方法(自校にふさわしい測定ツールの選択等)を設定。
- 目標に準拠した教育課程を編成。各教科において指導計画を策定し、学校の全体の取組として共有。

【Do】

- 指導計画に基づき、生徒の実態を踏まえながら日々の学習指導と学習評価を実施。(適宜指導計画の見直しと、指導方法の工夫を行う。)

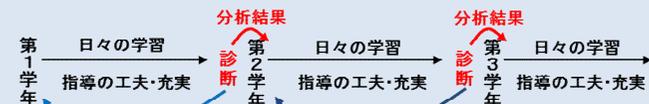
【Check】

- 測定ツールを用いて、生徒の学力の定着度合いを把握し、生徒の学習成果と課題を分析。(学校の実情に応じて適切な時期に活用できる。)

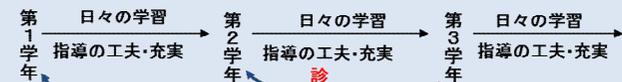
【Action】

- 分析結果をもとに学校としての対応策を検討し、次年度の計画と取組に反映(教育課程や指導計画、指導方法、生徒の個別課題対応等)。
- 一人ひとりの経年的な変化(学力の伸び)を確認し、分析結果を指導の工夫・充実に活用。

学年末に診断するパターン例



年度途中に診断するパターン例



新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

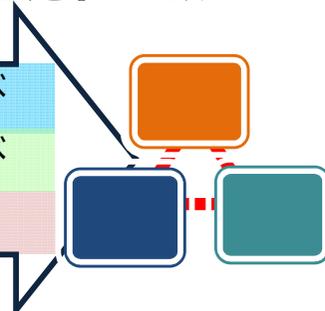
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。